

在宅ケア態勢整備を

NPPOが 医療と介護連携訴え 北区で大会

在宅医療・介護を進めるNPPO法人「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」(事務局・東京都)の第20回記念大会が14日、北区で開幕した。約1000人が集まり、地域全体でお年寄りを支える医療などの態勢整備を考えた。15日まで。【瀬谷健介】

同ネットは訪問診療などに取り組む医師ら約500人が参加している。この日は広島県尾道市の公立みつぎ総合病院名誉院長・特別顧問の山口昇医師が基調講演し、「高齢者が住み慣れた場所で一生、その人らしく暮ら

せるように医療や介護などが連携する地域包括ケアシステムの構築が不可欠」と提案した。国際医療NGO「AMDA」(本部・岡山市)の菅波茂代表は「岡山発!地球全体から見た在宅医療・介護の世界」と題して講演し、

「他人の助けなしには生きられない要介護者もプライドがあり、人に必要とされて『あり

がとう』と言われたい。関係者が『ありがとう』と言い合える在宅医療・介護がされるべき」と話した。

15日は当日参加が可能で、参加費は1000円。問い合わせは岡山コンベンションセンター(086・214



「『ありがとう』と言い合えるような在宅医療・介護がされるべき」と講演で話すAMDAの菅波茂代表。北区駅元町の岡山コンベンションセンターで